

特定非営利活動法人
日本健康事業促進協会
— Japan Health Project Promotion Society —

会報 : Vol.2- No.4 / 2006年10月

NPO法人 日本健康事業促進協会は、「人の健康は病気の予防に始まり、地球の健康は環境の保全による」を基本理念としています。

総合的な健康の維持・増進・回復をテーマにしたセミナーやフォーラムの開催、スポーツを通じた青少年の健全育成のバックアップ、地域の市民活動団体とのネットワーク作りを行います。また健康関連素材の医学的研究のバックアップも行います。

これらの活動を通して「人」個々の健康促進をサポートし、充実した人生を送れる生活環境を作り上げることに寄与することを目的とします。

当協会に対する各種お問い合わせ・ご要望等がございましたら
e-mail: info@jhpps.org まで、ご連絡ください。

— 協会所在地 —

東京都中央区日本橋室町1-8-7

www.jhpps.org

- ① 健康・予防医学に関する新技術の基礎データ・臨床データ取得の受託事業
- ② 健康・予防医学と健康維持・環境保全に関する講演会・フォーラム・セミナー・イベント等の開催事業
- ③ 健康・予防医学と健康維持・環境保全に関する素材・製品・機器・技術の調査・研究事業とその成果の認定及び紹介・提供事業
- ④ 健康・予防医学と健康維持・環境保全に関する素材・製品・機器・技術の認定事業及び紹介・提供事業
- ⑤ メンタルトレーニングシステム (MTS) の構築とトレーナーの育成・認定事業
- ⑥ MTSによるMTを基にした青少年・社会人に対する各種スポーツ指導を通じた青少年の健全育成事業
- ⑦ 健康・予防医学・健康維持・環境保全とMTS構築の各事業に関する、国内外の情報収集活動事業
- ⑧ 健康・予防医学・健康維持・環境保全とMTS構築の各事業に関する、国内外の団体・個人への研究会・勉強会を中心とした協賛・提携・参加等に基づく情報交換事業と人材交流事業
- ⑨ ホームページの開設運営・出版物の発行等による普及啓蒙事業
- ⑩ その他、協会の目的を達成する為に必要な事業

会 員

- (1) 正会員 協会の目的に賛同して入会する個人・団体
・入会金：個人 10,000円 団体 100,000円
・年会費：個人 10,000円 団体 100,000円
- (2) 賛助会員 協会の目的に賛同し、賛助するために入会する個人・団体
・入会金：個人 10,000円 団体 100,000円
・年会費：個人 10,000円 団体 100,000円
- (3) 準会員 協会の目的に賛同して入会する個人
・入会金：5,000円 ・年会費：5,000円

機関誌 / 年 4 回発行：当協会推奨品に関わる研究推移状況・学会発表内容・新製品案内や、関連フォーラム・関連コンサートのご案内、健康コラムを掲載

*会員の方は、当協会ホームページにアクセスし会員番号を入力して頂くと、機関誌にプラスした内容や発行前の新内容を早くご覧頂けます。

*正会員・賛助会員の方が、当協会機関誌・ホームページに紹介する指定企業の指定製品をご購入される場合、10~20%の割引を受けられます。準会員の方がご購入を希望される場合は、ご紹介のみとさせていただきます。

*正会員の方には、①協会運営 ②協会活動 ③健康素材開発・研究、フォーラム・セミナー等についてのボランティア支援 ④協会活動に対する援助金・寄付金補助 ⑤各種研究に対する分担金・援助金・寄付金補助 等の責任分担をお願いすることがあります。

今回は、9月に行われたPACコンベンションにおける、日本大学 工学部 尾股教授による「代替医療物質 PROUSION」についての講演内容を紹介します。

当日の参加者は約1,000名。

研究分野におけるブラウシオン効果の映像には、驚くばかりでした。

ただ、今回はデータをプロジェクターに映している為、スライドを掲載できていない部分があります。また会場から撮影した為、見辛い写真になっています。申し訳ありません。御容赦下さい。

尚、この研究に関わる継続情報は、随時会報とホームページに掲載して行きますので、御期待下さい。

「最先端医学と PROUSION」

ブラウシオンの出会いは、今から二年程前に橋本先生とお会いしまして、そこで初めてお話を伺いました。

で、色々大変素晴らしい結果が出るという事を伺いまして、ただ私達は工学者で疑い深いものですから、それ本当かなと、良い物ほど嘘が多いっていうのが私の信条でした。まあ話を聞いてですね、橋本先生の書かれた本とか現物とか色々取り寄せまして、どういうものであるかってことを今から二年前にスタートしました。

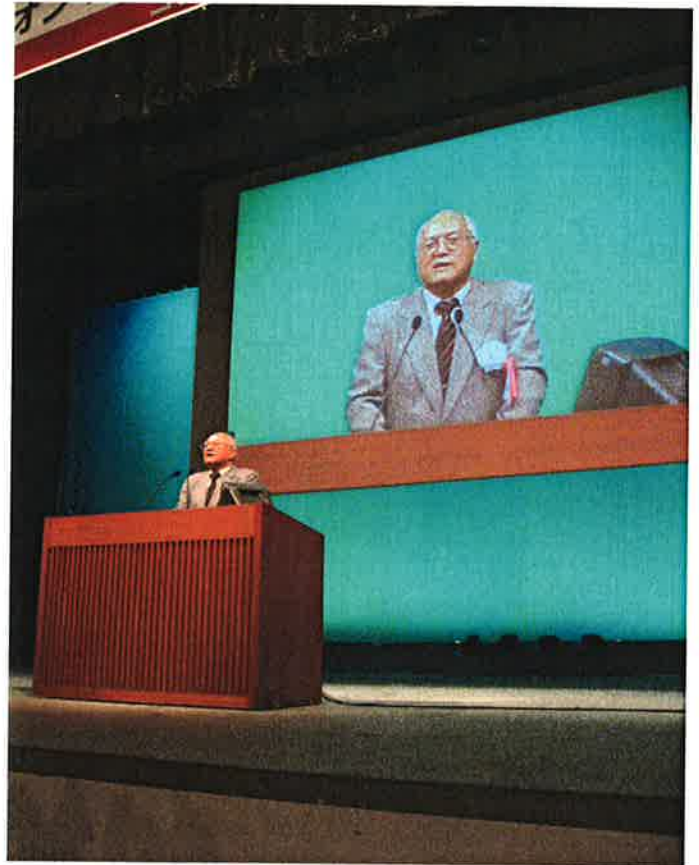
そのスタートするに当って、色々な本を読んだのですが、読めば読むほど、結論から申し上げますと、はっきり言って何も判りません。

何も判らないってどう云う事かという事です、今の科学では残念ながら解き明かせないことが盛りだくさん入っているという事です。それはまやかしても何でもなくて、結局のところそこに使われているセラミックの複合材料の組み合わせは橋本先生が発明されて、で、それを手にとったりですね、あるいは顕微鏡で観たり色々するんですけども、全然どこにも（セラミックの生体に対する効果・影響というようなものは）もちろん書いてありません。そういう効果があるってことの文献もどこにも、実は世界中約一年半ぐらいに渡って色々な材料を探して、中身を見てどれが一体これにあてはまるんだろうかってことを、分析させて頂きました。

幸い橋本先生の方で、復旦大学でかなり詳しく調べました分析結果がありますので、それは非常に参考になりましたけれども、今もって残念ながら原理はよくわからない。

但し、基本的にはやはりその何をもってそういう影響が出るかという一番の根底はですね、例えばこういう二つの水の入ったコップとそれから水の入っていないコップ（ぶつけてコップがカチカチなる）、これは皆さんの耳に聞こえていると思うんですが、水の入っていないもの同士だと（ぶつけてコップがカチカチなる）音が違いますね。違うけど、ちゃんと皆さんの耳元には聞こえているはずで。

で、これはどういうことかと言いますと、結局薬もそれから我々の健康状態も、そういうものは効果があるとか、ないとかっていうのは必ず共鳴と言う現象を伴いま



す。それはレゾナンスともいいます。共鳴って事はどういうことかといいますと、私が今お話している事は、私の声帯の共鳴を利用して、皆さんの耳元の鼓膜に伝わっているわけですね。その鼓膜の振動も共鳴なんです。私が話しているこの声が、みなさんに共鳴して、みなさんの鼓膜で聞いているわけです。共鳴しない人はもちろん聞こえません。

それと同じような事が、体の中で色々な風に起こります。それは栄養を取る時も、体内に入った毒を排除する事も、全部実はそういうメカニズムの中で起こっている。

で、別にこれは私が申し上げることでもないわけですが、でもそれは色々な本にも書いてありまして、とにかくそういう共鳴とか共感とかレゾナンスとか、そういう風な世界の中で、こういう現象が起こっているという事だけは確かだろうと思うんですね。そうしないと、共鳴した人、これは体温が上がったとか、（ブラウシオンを使用する事による効果を）調査した結果とかたくさん手元にあって見させて頂いているのですが、結局この効果を見ますと、我々一個一

個の細胞がそのメカニズムの中にきちんと取り込まれている、そうしてはじめて起こる現象なんですね。

(スライド表示：研究室の様子)

これは、うちの研究室で、こういった中で研究をしているわけです。

私は工学者ですけども、実際は工学といいながら皆さんのご覧になっているのは、全くの病院です。

で、こういう先端的な機器を利用して様々な研究をブラウションについても行っていくのですけれど、病院と同じあるいはその先生方と一緒にあってこういった(ブラウションのような物の)メカニズムを解明していく上では、(こういった施設が)非常に重要になります。

(スライド表示：円筒状の装置)

これは動物実験を行う為のものです。この円柱はですね、本当にブラウションが、例えば皆さん肩こりが治ったとか、足腰が強くなったとか、活性酸素がなくなったとか色々事言われますけれども、人間がそういう事で効果があったならば、例えばラットとかマウス、動物の世界にも同じ事が効果があるはずなんですね。人間だけじゃなくって動物によっても検証しなくてははいけない。

で、これを作りまして、この円筒状の一番下に、左側に測定器っていうか電流刺激装置がありまして……

(スライド表示：住環境を調べる装置 長方形の箱)

これは次のステップの実験なんですけれども、これは住環境を調べる為のもので、右側がブラウションを内側に塗りまして、左側は全部コンクリート剥き出しなんですね。

これ何やるかっていいますと、我々の住環境でみなさんビルの中に住んでるとか、あるいはコンクリート剥き出しの中の部屋にいたりかっていいますと、非常にたくさんの有害物質がこういう中からはきだされて、非常に気分が悪いとかっていう場合に、果たしてブラウションはどのような効果をもたらすのだろうかというような事も、こういった実験で行うわけです。

(スライド表示：円筒状の装置の内部)

これがその円筒状の中の、ちょっと見づらいですけれども一番下に金網がありまして、そこに実はラットを一匹置きまして、電流を軽く流すんですね。足に電流が流れますから、片足上げたり、両足上げたり、飛び跳ねたりなんかするわけですけど、まあマウスにとってはえらいストレスになるわけですね。当然それは一生懸命動きますからストレスがどんどん溜まります。で、そうすると、結局筋肉の組織細胞の中に活性酸素がどんどんどんどん溜っていきま

す。それで一日十分ぐらいストレスを与えます。あとは水も食料も健康な状態と同じように与える。

もう一つのグループは、床敷きのところにブラウションのマットを置いてあります。

片方は刺激をどんどん増していきますから、ストレスがどんどん溜っていきます。

で、片方はちゃんとブラウションが敷いてありまして、例えばみなさんが今日は疲れた、仕事のやり過ぎでストレスがたまった、酒でも飲みましょうと、普段はそうなんですけど、ところが酒を飲まなくなると、皆さんご存知のようにブラウションの上でゆっくりお休み頂ければ、それは活性酸素の除去に本当に効果があるはずですよ。

どんどんストレスを溜めていって例えばそれが最終的に活性酸素によってですね、とどのつまりは疲労が回復されないとか病気になる。そういう風なメカニズムの中で我々人間は暮らしているわけです。

さて、結局今、先程お話しした動物のこととか物理的な解析も含めて考えると、ブラウションの持っている効果の最大の特徴は、やっぱり我々の体に害もなくってですね、それでそういった優れた効果が発揮されてるとというのが、先程言いましたように、いろんなブラウションに入っているセラミックから発せられる共鳴、レゾナンスが、我々の体内の血流細胞で、直接的な作用とそれから間接的な作用と両方含めて、影響が我々の体に及ぼされているという風に考えて差し支えないと思うんですね。

(スライド表示：手で観る世界～最先端医学とブラウション～)

これが、最初のスライドですけど、最先端医学とブラウションってことなんです。

実は最先端医学といえど、残念ながら今どういう現象が起こっているか、みなさんご存知でしょうか。

例えば、王選手が内視鏡外科手術という方法をうけたけども、実はああいう風に外科手術ロボットとか医学がどんどんどんどん進んでいっても、やはり本当から言えば、切らないで治った方が一番いいわけですね。

(スライド表示：低侵襲医療を目指す内視鏡下外科手術システム)

でこういった、これが低侵襲の外科手術。まあこういった手術の現場、実はこういう現場を先程の一番最初にお見せした手術の中でこういうことが出来る。まあ実際はお医者さんとやっているわけですけども。

(スライド表示：手術ロボット)

これが外科手術ロボット。まあこういうものが遠隔で今は出来るようになりました。でもやっぱり切らないほうが一番いいわけです。

プラウシオンに期待されるもの

1. 生命誕生の歴史を記憶する遺伝子
2. 人間の特性を考慮
3. 自然治癒のバランスを呼び覚ます
4. ホメオスターシス(恒常性)の回復
5. アンバランスのバランス(不安定の安定)

られるわけです。やはり人間の持っている元々のバランス、そういうものをちゃんと守らないといけない。ということ的前提に立つと、我々先程言ったようにそういうモデル実験から次のような事が出て来ます。

(スライド表示：プラウシオンに期待されるもの)

プラウシオンに期待されるものは何かと言うと、やはり元々持っている人間の生命の遺伝子、それからこれはもう三十何億年とか、小さなその生命体の中から遺伝子を皆さんの体の中に培われてきているわけですが、その長い長い歴史が当然あるわけですね。そうするとやはり先程言いましたように、人間のそういった特性・特徴をよく知らないといけない。そういった特徴を知って事は、当然それは、我々は自然の中で生かされてますから、例えば、赤ちゃんがオギャアって産まれた時は大体八割がたが(体内は)水(です)。我々の体は大人になっても60%、70%は水です。逆算すると我々はほとんど水の塊。我々、人間の体は水で作られている。

早い話、水の中にゼラチンの一つの塊をポーンと入れて出来上がった。それに三十何億年掛っていると思って頂いて結構です。

そのぐらい人間はものすごい精密な、貴重な生き物なんですね。従いまして、先程外科手術がどうのこうの、最先端医学がどうのこうのって言いましたけども、本来なら我々人間が自然の摂理のもとで生きているわけですから、それにそった生き方、あるいは治療の健康を保つ為の道具っていうものが、絶対人間にあったものがあるはずなんですね。

そういった意味で橋本先生の開発されたプラウシオンは、今そういうところにあると思うんですね。

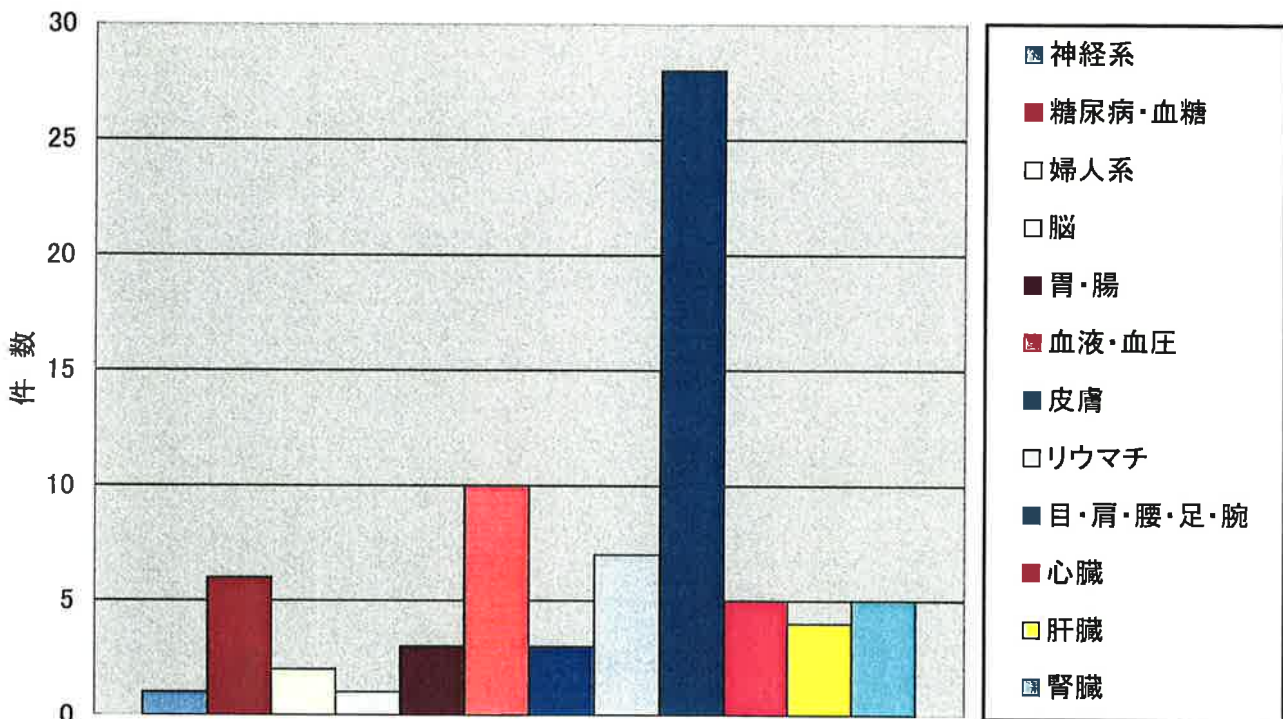
(スライド表示：プラウシオンを利用した症状の改善例)

資料を分析しますと、プラウシオンを使用して、肩こり、目などの疲れ、足腰の痺れ、手足の痺れ、腕が重いか、そういう風なもの、ようするに筋肉とかそういったところのものが、非常に改善されている。その効果がものすごく大きいというのがよくわかります。

他にも満遍なくあるんですけども、次には、血液とか血圧が正常に戻ったとか、血流がよくなった、血行がよくなったそれがピンクですね。

あと茶色のところが糖尿病が改善された、血糖値が改善されたとか。

まあこういうふうな、これ約100件ぐらいのものなんですけども、まあ全部集めるともっとたくさんのデータが得られると思うんですね。こういう風なメカニズムがおこっ



プラウシオンを利用した症状の改善例

てるわけです。

先程も言いましたように、最初は半信半疑と申し上げましたけれども、そのメカニズムもう一度自分の目で確かめたい。そうしないとやはりその最初の根本のメカニズムを、きちっと理解しないと結局的外れた研究になってしまうので、やはりその一番最初にこの棒グラフの一番高いところ、筋肉とか肩こりとか要するに人間の骨格を維持している筋肉細胞のところからという事でスタートしました。

(スライド表示：マウスを利用した動物実験)

で、マウスを利用してどういう実験をしたかといいますと、先程言いましたように、マウスに電氣的な刺激を与えて、ストレスを与えます。

当然それは体の中に、活性酸素がたまります。皆さんが運動されると、あー疲れたとかね、一生懸命動くと筋肉が張ったりなんかして動けなくなります。その時当然細胞の中に、活性酸素がたくさん発生している。

そういった時に、この時発生する活性酸素を、例えばブラウシオンという材料をもって疲労が回復が改善を図れる。本当にそうなのかどうかという事を、目で見える形で調べたわけです。

その有効性を確認する為に、まずコントロール群といひまして、何にもしない群。

もう一つは電気刺激を、毎日十分間先程の筒の中に入れて、電気刺激を与えます。もちろん先程も言いましたように、苦しんで死ぬほどの電気刺激は与えない。死んでしまったら、元も子もありませんから。そういった刺激をずっと毎日与え続けます。

その時に、この(2)のグループはブラウシオンを使わないで、電気刺激で一生懸命走らせて、あとは一日休んでもらう。きちんとそれを餌も与えて、水も与えて、皆さんが

普段生活するのと同じようなことをマウスにさせます。

で三番目ですね。これも同じように電気刺激を毎日十分間。(ただし) マウスを飼っているケージの下にブラウシオンのマットを敷いて置きます。ただそれだけで、後はその中で(普通に) マウスを飼う。

こういうふうなものを、大体11匹ずつ何段階も何段階もやります。サイクルとしては、これは大体二十日間、三週間やって、それを何回も繰り返して、間違いなくこういう風に効果があるって事を確認していくわけですね。

(スライド表示：実験の風景)

で、これがまあ実験の風景なんですけども、こういうふうにケージの中にマウスが入っております。

(スライド表示：動物実験用マウス)

で、これがまあ実験に使用したマウスですけど、実際はここに木の屑みたいなものがたくさんあるんですけど、下のほうにマットを貼っております。

実際これ、マウスがほじくったりするものですから、斜めになってたりするんですけども、いつも平らにして厚さを揃えて、マットに直接実際にマウスは触っていません。驚いたことにきちんとした効果がでるんですね。

だからこれ、必ずしもまあ動物実験なんですけど、今ここにはブラウシオンのマットは見えませんよね。実際は下にあります。そういう風に考えると…

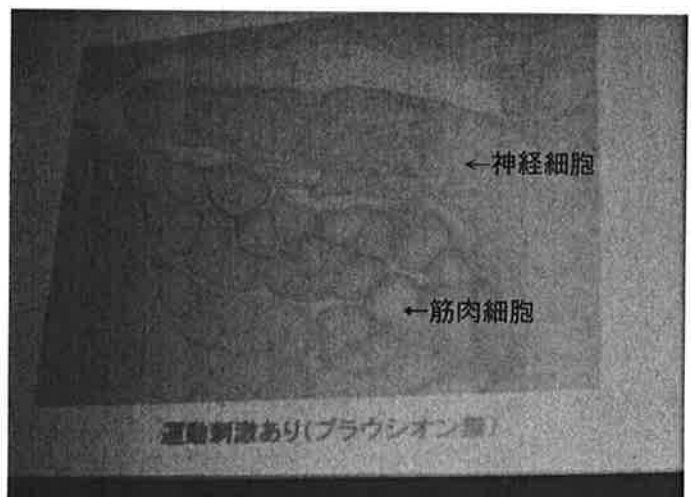
(スライド表示：円筒状の装置)

で、これは先程説明した、こういうもので電気刺激を与えます。

(スライド表示：円筒状の装置の内部)

(スライド表示：筋肉細胞 運動刺激+ブラウシオン無し)

これ、筋肉細胞一個一個です。筋肉細胞一個一個。で、丸いのが筋肉細胞で、真ん中でずーと延びているところが、神経細胞ですね。

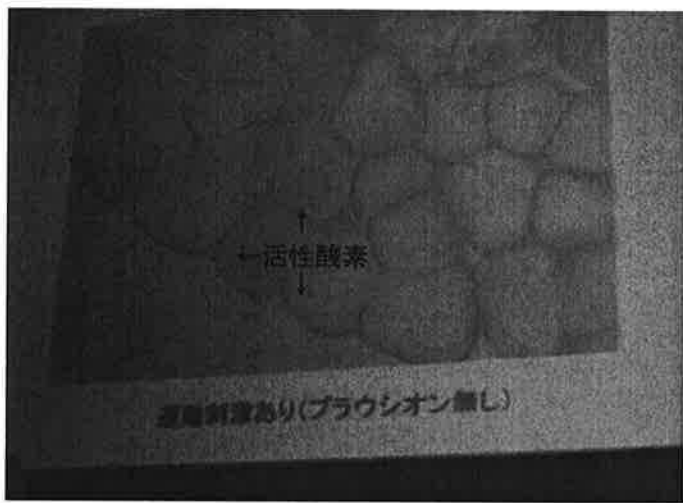


電気刺激+PROUSION無し

マウスを使った動物実験

電氣的刺激を与えて、ストレスを発生させた時に、体内には活性酸素が大量に発生する。
このとき発生する活性酸素をブラウシオンの作用によって疲労回復の改善がなされるか否か?についてその有効性を検証

1. コントロール群
2. 電気刺激(1日10分間) + 何も無し
3. 電気刺激(1日10分間) + ブラウシオンマットをケージの底に敷く



電気刺激+PROUSION無し

色が濃くなったり、白くなったりしているところがありますね。で、一個一個の細胞のふちが黒くなっています。あと他も右上のほうは真っ黒になっていますよね。

実はこれは、活性酸素が発生している証拠です。

でこれは実際の生のほうを、顕微鏡で見ますと、はっきりと色がわかるんですが、まあとにかくこういうふうに細胞のふち、ヘリのところにたくさんこういうようなものができます。

(スライド表示：筋肉細胞 拡大)

これはもっとすごいですね。真ん中の方にたくさん電気刺激でストレスが細胞にたまっている。これを放っておけば、我々人間も同じようなメカニズムが細胞の中で起こるわけです。

で、こういう風な赤いところ、色が黒いところ、それが活性酸素がどんどん発生しているという事がよくわかると思います。これがブラウシオンが無い場合。

(スライド表示：筋肉細胞 運動刺激+ブラウシオン有り)

これがですね、運動刺激を一日十分間与えて、ブラウシオンを入れておいたケージの中に置いた場合。

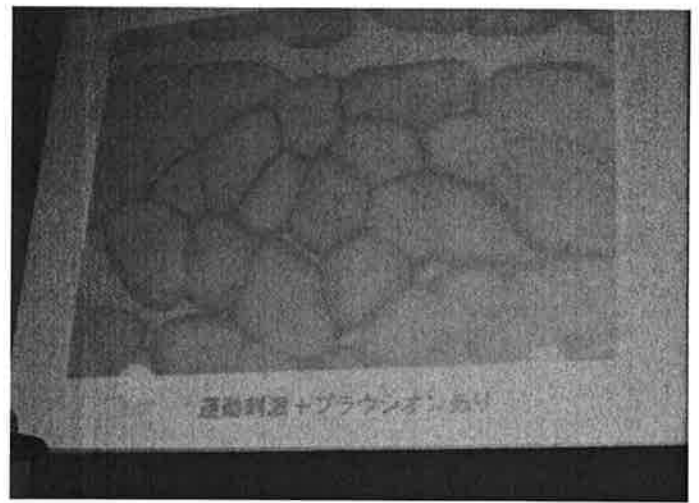
当然ちょこっと何箇所か活性酸素がある場所もあります。でも先程のスライドを見ておわかりのように、非常にきれいでしょ、これ。もちろん活性酸素がまだ分解されないであるところもありますけれども、さっきのものから比べると非常にこれが少ない。

(スライド表示：筋肉細胞 拡大)

これなんか見ておわかりのように、当然縁には少し残っていますが非常にきれいですよね、一個一個の細胞が。

で、こういうものをどんどん積み重ねていって、細かい実験を繰り返して、これを大体3クールぐらいやるんです。

この様に一個一個の細胞を観察しても、SODが活性化して活性酸素が除去されて、きちんとこういったブラウシオンの効果と思われるものが検証されている、と言えます。



電気刺激+PROUSION有り

(スライド表示：ブラウシオンの有効性と今後の課題)

で、こういったものをやった結果、要するに、十分間の電気刺激によって我々と同じようなストレスを筋肉に与えられたマウスは、その筋肉細胞の中に大変多量の活性酸素が発生してくる。

例えばそれが疲労の原因となるのは、先程言いましたように、これがどんどんどんどん長期に時間がたてばたつほど、我々と同じように病気になったりガンになったり、そういうメカニズムに進行していくわけです。それは、何も筋肉のストレスとかそれから病気ってばかりじゃなくて、精神的なストレスを受けたことによっても同じようなことが実は我々細胞の中に起こります。

そういう意味でこういう風にストレスを与えてマウスの筋肉細胞内に発生した疲労の原因となる活性酸素が、ブラウシオンの影響っていうか効能っていうかあるいは効果をもたらしているっていうのが、こういった実験からわかります。で、これを統計的にやるわけです。

ブラウシオンの有効性(飼育ケージの底に敷く)

1. 10分間の電気刺激によってストレスを与えられたマウスは、その筋細胞の中に活性酸素が多量に発生している様子がSODによる分析で確認された。
2. マウスの筋肉細胞に発生した活性酸素は疲労の原因となるが、ブラウシオンを敷いたケージの中で飼育されたマウスは、疲労の原因となる活性酸素の減少が顕著に認められた。
3. 電気刺激によってマウスの筋肉細胞内に発生した疲労の原因となる活性酸素がブラウシオンによる影響と思われる効果が認められた。

今後の課題

1. 住環境におけるブラウシオンの効果検証
2. 疾病モデル(癌・腫瘍)におけるブラウシオンの効果検証
3. ブラウシオンの人体への効果検証
4. ブラウシオンの人体へのメカニズム
5. ブラウシオンの新しい展開
6. その他

で、どうしても我々は色々なところで色々な疲労とストレスを受けます。それは粉塵とかあるいはその環境ホルモンといったものの影響もあります。そういう住環境の中で、どういう風にブラウシオンを有効に生かすかっていう効果検証、そういったこともしなければいけない。

あともう一つはですね、これはすでにスケジュールに入って今実験の準備をしている最中なんですけども、実際色々な癌とか腫瘍とかそういうものですね、男性ですと前立腺がんとか前立腺肥大症とか、当然女性も皮膚がんとか、あるいは肝臓とか肺がんとか。今はもうほとんど癌のそういった、元々一個一個を株というんですけども、そういうものをマウスとかラットに埋め込んで、実際に何がどこまでこのブラウシオンが効果があるのかと言う事を、きちんと定量的に明らかにして、ぜひ皆さんにもう一度ご報告したいと思います。

あと三番目は、ブラウシオンの人体への効果検証ですね。先程言いましたように、我々の体が、ブラウシオンとどう共鳴しているのか。

当然セラミックですので、当然皆さんご存知ように遠赤外線を出します。遠赤外線は、ものすごく真っ赤になった時はよくわかるんですが、どうも橋本先生の作られている

遠赤外線はそういうタイプのもではなくて、我々の体温、温度そういうものの低い温度を受けただけでも遠赤外線を出すセラミックが中に入っている、という事が調べていてわかりつつあるんです。

そういうものが、我々の体に遠赤外を自分で発した体温でセラミックから今度逆に輻射をうけて、そういった遠赤外が我々の体と共鳴して、血行がよくなったり、血流が例えば血流がドロドロしていたものが改善されるのではないかと。例えば私の研究室の器械で、指をこう例えばここにブラウシオンのマットを巻いたりなんかすると、ここの血流がものすごいスピードで動き始めるんですが、そういったものがじかに観察できる。

でそれは何かって言うと、先程言いましたように、元々人間の持っている特徴、ホメオスタシス(恒常性)っていうんですけども、そういったものと共鳴を起こしている。作用が化学的、ケミカル的には何も起こってないんです。

そういう風な先程も言ったような(机をこつこつたたく)こういう共鳴が、我々の体の中で、ブラウシオンの中でこういう事が起こっている。

そういった事が物理的な現象として、どうもそういうことがブラウシオンと人間の体に起こっているんじゃないかってことが予想されます。

次が、ブラウシオンの人体へのメカニズム。

そして、ブラウシオンの新しい展開。

あとその他ですけれども、先程言いました住環境の影響とかそういうことになるわけです。

(そうした研究を進めて)やはりそのメカニズムも含めて、大変すばらしいこの材料をですね、何としても、まあ100%は無理でも、その何割かは今までの知恵と知識を利用して分析して、もっともっと詳しいデータとしてご提供できれば、みなさんのご理解に役立つんじゃないかと思っています。

またそれを利用して、もっともっとすばらしいものを橋本先生に開発頂ければとも思います。

先端的な医療と言うことを一番最初に申し上げましたけども、切ったり貼ったりするよりも、本来のバランスを保てるのが大切です。人間の持っているバランスの中に、要するに我々人間は、先程言いましたように水の塊として生きていますから、それは非常に壊れやすいし、ストレスに弱い。そういう風な我々が、アンバランスの中にバランスを保って生きている。

それを支えるのが、まさにそういった意味ではブラウシオンの役目もひとつ大きな影響として期待できるんじゃないかと、という風に思っています。

